

	25-29	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	5	105
	30-34	0.0	0.0	14.3	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7	112
	35-39	0.0	0.0	15.4	0.0	30.8	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7	13	137
	40-44	0.0	0.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	8	101
	45<	0.0	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	16.7	12	102
集計		0.0	0.0	22.0	2.0	28.0	2.0	6.0	0.0	8.0	0.0	2.0	8.0	0.0	10.0	12.0	50	690
女性	<19																0	55
	20-24	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2	87
	25-29	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	5	113
	30-34	0.0	10.5	0.0	0.0	15.8	5.3	21.1	5.3	5.3	0.0	5.3	5.3	5.3	10.5	10.5	19	176
	35-39	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10	153
	40-44	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	20.0	5.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0	25.0	20	148
	45<	4.8	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	19.0	9.5	4.8	0.0	4.8	4.8	33.3	21	158
集計		1.3	3.9	1.3	5.2	13.0	6.5	10.4	3.9	14.3	2.6	3.9	1.3	6.5	7.8	18.2	77	890
総計		0.8	2.4	9.4	3.9	18.9	4.7	8.7	2.4	11.8	1.6	3.1	3.9	3.9	8.7	15.7	127	1580

## 6. 低用量ピルに対する意識

予期しない妊娠の防止についてという設問で、更に詳しく避妊効果の高い低用量ピルについて聞いている。低用量ピルの使用についての考えとして、「既に使用している」と答えるものが男性で5名(0.7%)、女性17名(1.9%)、「使用していないが是非使用したい」が男性83名(12.0%)、女性64名(7.2%)と男性にピル使用願望の有意( $p<0.01$ )に高いことが示されていた。「現状では使用したくない」男性67名(9.7%)、女性88名(9.9%)、「使いたくない」男性471名(68.3%)、女性671名(75.4%)と後者が有意( $p<0.01$ )に高値を示していた。

2002年の調査では、「既に使用している」が男性で0.4%、女性で1.6%、「使用した

い」男性12.1%、女性13.3%、「使いたくない」男性70.5%、女性71.8%であった。

未既婚別でみると、「是非使ってほしい」と考える未婚男性は43名(14.4%)、既婚31名(9.0%)と未婚の方が有意( $p<0.05$ )に高値であり、「使って欲しくない」未婚184名(61.7%)、既婚259名(75.1%)と既婚者が有意( $p<0.001$ )に高値であった。女性では「使用したい」27名(10.7%)、既婚31名(5.2%)と未婚者が有意( $p<0.01$ )に高値で、「使いたくない」が男性同様未婚177名(70.2%)、既婚466名(78.8%)と有意差を認めた。

表 36. 5歳階級別低用量ピルの使用意向

性別	年代	使用している	使いたい	現状では使用しない	使いたくない	無回答	総計

男性	<19	2.1	8.5	6.4	70.2	12.8	47
	20-24	0.0	19.8	16.3	57.0	7.0	86
	25-29	0.0	12.4	12.4	70.5	4.8	105
	30-34	0.9	11.6	7.1	72.3	8.0	112
	35-39	0.7	10.9	8.0	70.1	10.2	137
	40-44	1.0	7.9	9.9	74.3	6.9	101
	45<	1.0	12.7	7.8	61.8	16.7	102
集計		0.7	12.0	9.7	68.3	9.3	690
女性	<19	1.8	12.7	14.5	63.6	7.3	55
	20-24	3.4	9.2	14.9	67.8	4.6	87
	25-29	3.5	5.3	11.5	74.3	5.3	113
	30-34	1.7	8.0	10.8	77.3	2.3	176
	35-39	2.0	9.2	9.8	71.9	7.2	153
	40-44	1.4	8.1	6.1	79.7	4.7	148
	45<	0.6	1.9	7.0	81.6	8.9	158
集計		1.9	7.2	9.9	75.4	5.6	890
総計		1.4	9.3	9.8	72.3	7.2	1580

#### 7. 低用量ピル使用是非の理由

低用量ピルの使用意向の理由として、男性は「セックスの際に避妊を意識しなくて済む」が36名(40.9%)と第一に挙げ、次いで、「避妊効果が高い」20名(22.7%)、「女性自身の意思で使うことができる」9名(10.2%)と続いていた。女性は「避妊効果が

高い」が31名(38.3%)であり、「女性自身の意思で使うことができる」と「セックスの際に避妊を意識しなくて済む」が11名(13.6%)、「人工妊娠中絶をしなくて済む」9名(11.1%)と続いていた。

表 37. 5歳階級別低用量ピルの使用意向の理由

性別	年代	避妊効果	手軽	低用量	女性自身	避妊を意識しない	中絶を避ける	多くの国の実績	副作用	この中ではない	使用意向	総計
男性	<19	40.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5	47
	20-24	41.2	5.9	5.9	5.9	29.4	0.0	0.0	0.0	11.8	17	86
	25-29	15.4	0.0	0.0	7.7	38.5	23.1	7.7	7.7	0.0	13	105
	30-34	21.4	14.3	0.0	14.3	35.7	7.1	7.1	0.0	0.0	14	112
	35-39	12.5	25.0	0.0	0.0	37.5	18.8	0.0	0.0	6.3	16	137
	40-44	22.2	0.0	11.1	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	9	101

	45<	14.3	0.0	7.1	21.4	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14	102
集計		22.7	8.0	3.4	10.2	40.9	8.0	2.3	1.1	3.4	88	690
女性	<19	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	8	55
	20-24	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	27.3	11	87
	25-29	50.0	0.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10	113
	30-34	41.2	5.9	0.0	17.6	11.8	5.9	5.9	5.9	5.9	17	176
	35-39	41.2	11.8	5.9	5.9	17.6	5.9	0.0	11.8	0.0	17	153
	40-44	21.4	7.1	0.0	21.4	28.6	14.3	0.0	0.0	7.1	14	148
	45<	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	4	158
集計		38.3	7.4	2.5	13.6	13.6	11.1	1.2	6.2	6.2	81	890
総計		30.2	7.7	3.0	11.8	27.8	9.5	1.8	3.6	4.7	169	1580

低用量ピルを使用したくない理由として、第一にあげられるのが「副作用が心配」である。男性は327名(60.8%)、女性450名(59.3%)であった。次に男性は「女性だけに負担がかかる」54名(10.0%)、「情報が入手できない」34名(6.3%)、「既に使っている避妊法で十分」が29名(5.4%)、「性感染症

やエイズを予防できない」8名(1.5%)と続いていた。女性の2番目は「既に使っている避妊法で十分」が52名(6.9%)、「毎日飲まなければならないのは面倒」46名(6.1%)、「情報が入手できない」40名(5.3%)、「医師の検査診察を受けるのが面倒」27名(3.6%)と続いていた。

表 38. 5 歳階級別低用量ピルの非使用意向の理由

性別	年代	副作用が心配	情報が入手できない	相談する場所がない	毎日飲むのが面倒	女性だけに負担	今の避妊法で	STD予防できない	費用が掛かりすぎ	相手が反対	医療者が面倒	高齢	病気	ここにはない	無回答	反対	総計
男性	<19	38.9	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	5.6	36	47
	20-24	60.3	3.2	0.0	1.6	12.7	1.6	1.6	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	12.7	3.2	63	86
	25-29	54.0	11.5	1.1	3.4	9.2	6.9	2.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	9.2	1.1	87	105
	30-34	60.7	4.5	1.1	0.0	10.1	5.6	0.0	1.1	1.1	3.4	0.0	0.0	11.2	1.1	89	112
	35-39	73.8	4.7	0.0	0.9	5.6	8.4	0.9	1.9	1.9	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	107	137
	40-44	68.2	3.5	1.2	2.4	8.2	2.4	1.2	2.4	0.0	2.4	1.2	0.0	2.4	4.7	85	101
	45<	52.1	8.5	0.0	0.0	11.3	8.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.5	2.8	71	102

集計		60.8	6.3	0.6	1.3	10.0	5.4	1.5	0.9	0.7	1.3	0.2	0.2	8.4	2.4	538	690
女性	<19	55.8	4.7	2.3	9.3	7.0	2.3	2.3	4.7	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	4.7	43	55
	20-24	54.2	11.1	1.4	6.9	2.8	9.7	1.4	4.2	1.4	1.4	0.0	0.0	4.2	1.4	72	87
	25-29	60.8	4.1	0.0	6.2	4.1	8.2	2.1	1.0	0.0	3.1	0.0	2.1	7.2	1.0	97	113
	30-34	61.9	2.6	0.6	9.0	3.2	3.9	1.3	3.9	0.0	1.9	0.0	1.9	8.4	1.3	155	176
	35-39	61.6	5.6	0.0	2.4	2.4	8.0	0.8	2.4	0.8	3.2	0.0	1.6	10.4	0.8	125	153
	40-44	57.5	4.7	0.0	4.7	2.4	7.9	0.0	0.8	0.8	7.9	1.6	0.8	10.2	0.8	127	148
	45<	58.6	6.4	0.0	5.7	1.4	7.1	2.9	0.0	0.0	2.1	2.1	1.4	10.7	1.4	140	158
集計		59.3	5.3	0.4	6.1	2.9	6.9	1.4	2.1	0.4	3.6	0.7	1.3	8.4	1.3	759	890
総計		59.9	5.7	0.5	4.1	5.9	6.2	1.5	1.6	0.5	2.6	0.5	0.8	8.4	1.8	1297	1580

周りで低用量ピルを使用しているか否かについて問いかけているが、「知っている」と答えたのは男性で 10 名(1.4%)、最大 5

名であり、平均  $2.0 \pm 1.3$  人であった。女性で 69 名(7.8%)、最大 10 名平均  $1.8 \pm 1.4$  人であった。

#### 8. 人工妊娠中絶

人工妊娠中絶についての考えであるが、「中絶を認める」と「条件付で認める」が男性で 63 名 (9.1%) と 360 名(52.2%)で計容認派は 61.3%であり、女性は 49 名 (5.5%)と 533 名(59.9%)計 65.4%であった。

これを未既婚別でみると未婚男性の容認派は 162 名 (54.4%)、既婚男性 234 名 (67.8%)と既婚者に多く有意差( $p < 0.001$ )を認めた。女性では未婚 155 名(61.5%)、既婚 397 名(67.2%)と後者に多いものの有意差は認めなかった。

表 39. 人工妊娠中絶是非について

性別	年代	認める	条件付	認めない	どちらとも	この中に ない	無回答	総計
男性	<19	10.6	29.8	14.9	31.9	4.3	8.5	47
	20-24	19.8	39.5	7.0	29.1	2.3	2.3	86
	25-29	10.5	55.2	7.6	24.8	1.0	1.0	105
	30-34	7.1	52.7	4.5	28.6	2.7	4.5	112
	35-39	8.0	57.7	6.6	21.2	0.7	5.8	137
	40-44	5.9	57.4	8.9	16.8	3.0	7.9	101
	45<	4.9	56.9	6.9	25.5	1.0	4.9	102
集計		9.1	52.2	7.4	24.6	1.9	4.8	690
女性	<19	7.3	45.5	10.9	32.7	1.8	1.8	55
	20-24	6.9	54.0	4.6	29.9	3.4	1.1	87
	25-29	6.2	58.4	8.8	26.5	0.0	0.0	113

	30-34	4.0	58.5	9.1	26.1	1.7	0.6	176
	35-39	5.2	56.2	7.8	26.8	2.0	2.0	153
	40-44	6.1	68.9	4.1	18.2	2.0	0.7	148
	45<	5.1	65.8	5.1	20.9	0.0	3.2	158
集計		5.5	59.9	7.0	24.8	1.5	1.3	890
総計		7.1	56.5	7.2	24.7	1.6	2.8	1580

人工妊娠中絶の既往については、男性では、1回ありが50名(7.2%)、2回以上13名(1.9%)と合計9.1%であった。女性では1回が102名(11.5%)、2回以上43名(4.8%)と合計16.3%であった。また、「わからない」と答えたのは男性で117名(17.0%)、女性26名(2.9%)であった。年代別では年齢が高

くなるにつれ既往率は上昇していた。

未既婚別でみると、未婚男性13名(4.4%)、既婚39名(11.3%)と両者間に有意差( $p<0.001$ )を認めた。未婚女性では17名(6.7%)、既婚112名(19.0%)と男性同様に両者間に有意差( $p<0.01$ )を認めた。

表 40. 5 歳階級別人工妊娠中絶の既往について

性別	年代	1回	2回	3回	4回	5回以上	ない	わからない	無回答	総計
男性	<19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	17.0	17.0	47
	20-24	7.0	0.0	0.0	0.0	1.2	67.4	18.6	5.8	86
	25-29	6.7	1.0	0.0	0.0	0.0	67.6	21.0	3.8	105
	30-34	5.4	0.9	0.0	0.0	0.0	62.5	18.8	12.5	112
	35-39	8.8	1.5	1.5	0.0	0.0	67.2	13.1	8.0	137
	40-44	9.9	2.0	1.0	0.0	1.0	59.4	16.8	9.9	101
	45<	8.8	0.0	1.0	0.0	1.0	62.7	14.7	11.8	102
集計		7.2	0.9	0.6	0.0	0.4	64.6	17.0	9.3	690
女性	<19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.7	1.8	5.5	55
	20-24	5.7	1.1	0.0	0.0	0.0	85.1	4.6	3.4	87
	25-29	10.6	0.9	0.0	0.9	0.0	82.3	1.8	3.5	113
	30-34	9.1	2.3	0.6	1.1	0.0	81.3	2.3	3.4	176
	35-39	17.0	3.3	1.3	0.0	0.0	70.6	3.3	4.6	153
	40-44	11.5	6.1	3.4	0.0	0.0	68.2	2.7	8.1	148
	45<	16.5	5.1	2.5	0.0	0.0	63.9	3.8	8.2	158
集計		11.5	3.1	1.3	0.3	0.0	75.4	2.9	5.4	890
総計		9.6	2.2	1.0	0.2	0.2	70.7	9.1	7.1	1580

初回中絶時の理由について問いかけているが、男性では「経済的余裕がない」が多く20名(31.7%)、「相手と結婚していないので産めない」13名(20.6%)、「この中がない」11名(17.5%)、「相手との将来が描けない」7名(11.1%)と続いていた。

女性では「この中がない」が最も多く36名(24.8%)、「相手と結婚していないので

産めない」32名(22.1%)、「経済的余裕がない」25名(17.2%)、「自分の仕事・学業を中断したくない」9.0%、「自分の身体が妊娠・出産に耐えられない」8.3%、「相手との将来が描けない」6.9%と続き、その理由は分散していた。

表 40. 5 歳階級別初回人工妊娠中絶時の理由について

性別	年代	結婚していないので	経済的な余裕	これ以上子どもは	自分の身体が	自分の仕事が	育児に自信が	相手が特定	相手との将来が	相手が好きでない	この中がない	無回答	経験者	総計
男性	<19												0	47
	20-24	14.3	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	7	86
	25-29	37.5	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	8	105
	30-34	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	7	112
	35-39	18.8	37.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	16	137
	40-44	28.6	21.4	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	21.4	0.0	14	101
	45<	18.2	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	0.0	11	102
集計		20.6	31.7	3.2	1.6	6.3	6.3	1.6	11.1	0.0	17.5	0.0	63	690
女性	<19												0	55
	20-24	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	6	87
	25-29	35.7	14.3	0.0	7.1	14.3	7.1	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	14	113
	30-34	13.0	30.4	0.0	0.0	17.4	4.3	0.0	8.7	0.0	21.7	4.3	23	176
	35-39	27.3	21.2	0.0	12.1	6.1	0.0	0.0	9.1	0.0	21.2	3.0	33	153
	40-44	19.4	6.5	12.9	12.9	6.5	3.2	0.0	0.0	6.5	32.3	0.0	31	148
	45<	23.7	15.8	5.3	7.9	7.9	2.6	2.6	7.9	0.0	26.3	0.0	38	158
集計		22.1	17.2	4.1	8.3	9.0	4.1	0.7	6.9	1.4	24.8	1.4	145	890
総計		21.6	21.6	3.8	6.3	8.2	4.8	1.0	8.2	1.0	22.6	1.0	208	1580

初回中絶時に抱いた気持ちについて、男性では「相手に対して申し訳ない気持ち」が最も多く25名(39.7%)、「胎児に対して申

し訳ない気持ち」17名(27.0%)、「人生において必要な選択である」7名(11.1%)と続いていた。

女性は「胎児に対して申し訳ない気持ち」

が最も多く81名(55.9%)、「自分を責める気持ち」22名(15.2%)、「人生において必要な選択である」17名(11.7%)「手術への不安」11名(7.6%)と続いていた。

表 41. 5 歳階級別初回人工妊娠中絶時に抱いた気持ち

性別	F2年代	人生において必要な選択	解放される	手術への不安	自分を責める	胎児に対し	相手に対し	相手への怒り	親に対し	この中がない	覚えていない	無回答	経験者	総計
男性	<19												0	47
	20-24	57.1	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7	86
	25-29	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	8	105
	30-34	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7	112
	35-39	12.5	0.0	6.3	6.3	31.3	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16	137
	40-44	7.1	0.0	14.3	7.1	21.4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14	101
	45<	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	11	102
集計		11.1	1.6	6.3	9.5	27.0	39.7	1.6	0.0	3.2	0.0	0.0	63	690
女性	<19												0	55
	20-24	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6	87
	25-29	28.6	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14	113
	30-34	4.3	0.0	17.4	21.7	39.1	0.0	4.3	0.0	4.3	8.7	0.0	23	176
	35-39	12.1	0.0	3.0	12.1	63.6	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	3.0	33	153
	40-44	6.5	0.0	3.2	25.8	54.8	0.0	0.0	0.0	6.5	3.2	0.0	31	148
	45<	15.8	0.0	13.2	13.2	47.4	0.0	0.0	0.0	7.9	0.0	2.6	38	158
集計		11.7	0.0	7.6	15.2	55.9	0.0	0.7	0.7	4.8	2.1	1.4	145	890
総計		11.5	0.5	7.2	13.5	47.1	12.0	1.0	0.5	4.3	1.4	1.0	208	1580

### まとめ

性行動は若者の間で活発化していることは、今回の本調査でも明らかなこととなったが、クラミジアやエイズなどの性感染症の問題としては考えられるようになってきていることも明らかとなった。しかしながら、避妊法の実態からみて、初交時の避妊

法からも普段の避妊法からも指摘されるどころであるが、コンドームの使用率は高い結果で問題はないところで、女性が主体となって自ら考える避妊法が浮かんでこないように思われた。すなわち相手任せの避妊法の考えのようである。

男性はコンドームの使用については、性

感が損なわれる面倒だという考えが5割もあり、そしてピル使用にはセックスのときに避妊を意識しなくて済むとピル使用を女性に41%が勧めている現実と、初交時において女性は避妊を言い出せなかったり、避妊具がなかったために避妊できなかった現実を合わせ考えると、女性自ら主体になって行える避妊法である低用量ピル普及の啓発活動は急務であることが明らかとなった。



# 群馬県における高校生の性意識・性行動に関する

## アンケート調査

ぐんま思春期研究会 家坂清子、都筑芳子、宝田智恵子、山下博子、関口幸恵

### 1 はじめに

若者の性意識や性行動は、彼らの現在及び将来の健康に深く関係する重要事柄である。

また、これに関わる調査は、若者を育てる立場の者にとって不可欠な基礎資料でもある。実際、群馬県では平成12年、県下の高校生を対象に「第1回高校生の性意識・性行動に関わるアンケート調査（22校、5899名）」を行ったが、地方における同様の調査が稀であったためか、そのデータはさまざまな分野で注目され、性教育に関連する多くの場で活用されてきた。

しかし、当時より既に4年が経過し、この間には携帯電話やインターネットの普及、不況下における家庭環境の変化等社会状況の大きな動きもあり、これらが若者たちの性意識や性行動に何らかの影響を及ぼしたであろうことも想像に難くない。

そこで、両者の経時的変化や新たに浮上した問題への対策を考えるために、本年度も同様の調査を行うこととした。

### 2 調査方法

群馬県内の高校107校（定時制・特殊学校を含む）中18校の1～3年生を対象とした。調査総数は全高校生の10.2%

にあたる5498名（男子2485名、女子2831名、性別不明182名）である。

調査期間は平成17年1月11日から2月10日。学級担任、養護教諭、保健指導主事が各学級で調査票に記入させた後、回収した。

### 3 主な調査結果と考察

調査総数5498名から性別不明182名を削除した5316名について、一部は平成12年度調査との比較も含めて解析する。

#### ● 家族構成

父と同居していない生徒は9%、母は2%であり、うち父母ともに非同居は0.3%であった。

祖父と同居は27%、祖母と同居は41%に上り、うち祖父母ともに同居も23%であった。高校生の祖父母に当たる世代は既に高齢であるためか、同居率はかなり高いという印象を持つ。

本人を含めた平均家族数は4.85人であった。

#### ● 性自認

男子の70%（12年度調査69%）、

女子の55% (同49%) が自己の性で「よかった」とし、「反対ならよかった」は男子3% (同4%)、女子11% (同13%) である。

男子の方が自己の性に対する肯定感が高いが、女子の肯定感も高まっているようである。

● 家庭

小学校時代の家庭イメージは、男女ともに「楽しい」が7～8割である。

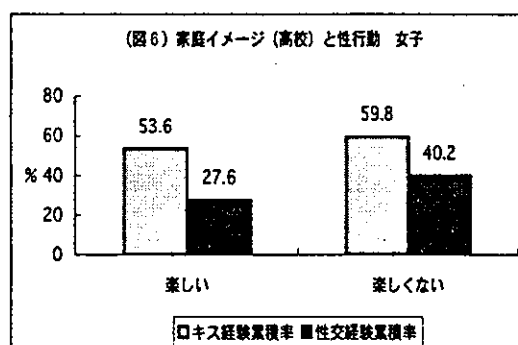
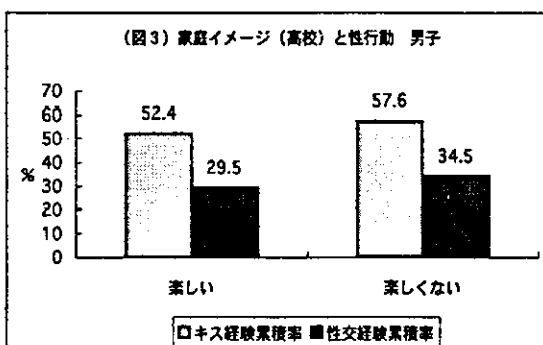
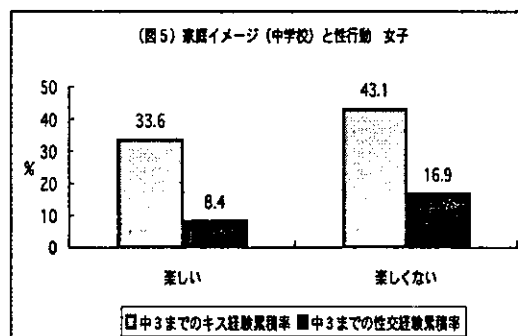
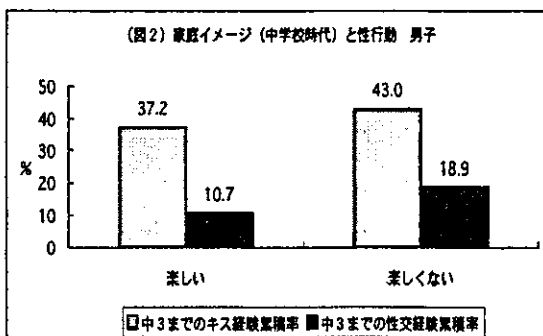
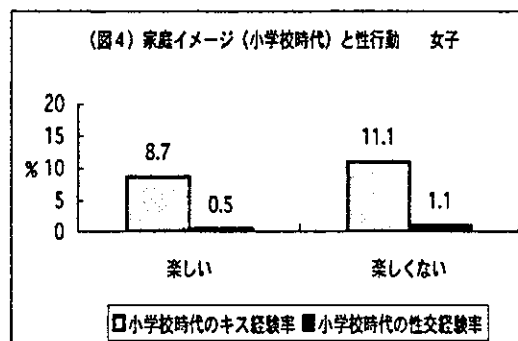
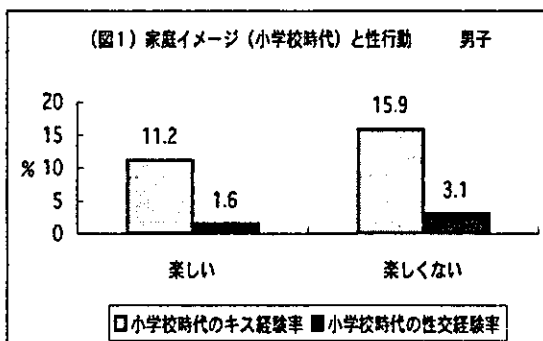
中学校時代になると5割に急減する一方、「楽しくない」は小学校時代6%前後から

中学校時代15～16%へと増加する。

高校時代の家庭イメージは中学校とほぼ同等であるが、女子ではやや好転する。

小・中・高校のいずれの時代においても、家庭を「楽しい」とした者のキス及び性交経験率は「楽しくない」とした者に比して低い (図1～6)。

思春期中期の子どもたちの、家庭に対して持つ印象の悪化は、彼らの性意識や性行動に何らかの影響を及ぼすであろうことは想像に難くない。



そこで、変化の大きい小学校から中学校にかけての家庭環境とキス経験、性交経験および経験者全体に占める早期経験群（中3までに経験した者）の割合との関連を見た（図7～8）。

キス経験：小学校と中学校時代の家庭が、どちらも楽しい（「楽しいー楽しい」と表記）であった場合、男子中3までのキス経験率は37%、女子33%であった。

これに比して、小学校では楽しかったが、中学校では楽しくなくなった場合（「楽しいー楽しくない」と表記）では、男子が52%、女子も44%へと上昇している。また、小学校からずっと楽しくなかった場合（同「楽しくないー楽しくない」）では、経験率は女子のみ44%に上昇し、男子では、ほぼ変わらない。

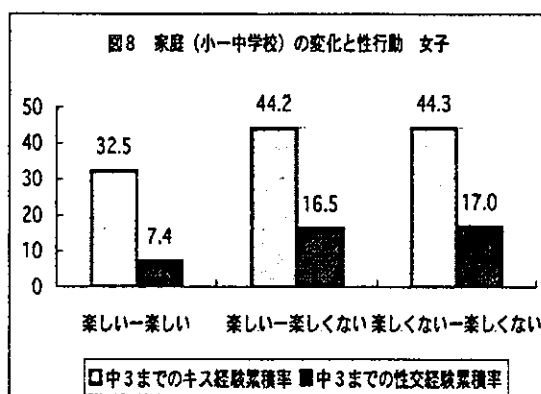
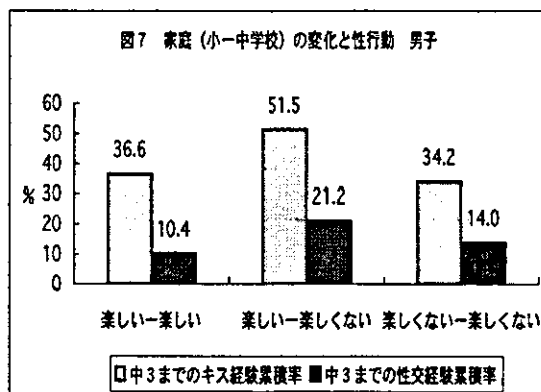
性交経験：小から中学校での家庭が「楽しいー楽しい」の場合、男子中3までの性交経験率は10%、女子は7%であった。

「楽しいー楽しくない」になると、男子で21%、女子で17%まで上昇する。また、「楽しくないー楽しくない」では経験率は女子のみ17%に上昇するが、男子は14%にとどまる。

すなわち、中学校時代に家庭が楽しくなくなることは、性交の前段階と見なされるキス経験を皮切りに、性行動を早期に開始させる要因となっている。

中でも女子においては、小学校時代がどうであろうと、中学校で家庭が楽しくないということが性行動を非常に亢進させる要

因となる。



#### ● 友人関係

小学校時代の友人関係は「楽しい」が男子8割、女子7割で、中学校になっても大きな変化は見られない。高校でも男女ともに75%が「楽しい」と答えている。

「楽しくない」はどの時代もほとんど1割未満であるが、全体的に女子の方がやや高く、特に中学校の女子だけは1割強で、男子の約2倍になっている。

中学校で友人関係を楽しまなかったと答えた女子の、中3までのキス経験率は、楽しかったとする女子より却って下回っているが、小から中学校への友人関係が「楽しいー楽しくない」とした女子の中3までの性交経験率は、「楽しいー楽しい」とする女子に比して約3割増である。

● 授業

小学校での授業は、男女ともに約半数が「楽しい」としているが、中学校になると「楽しい」は約25%に半減し、逆に約40%が「楽しくない」と答える。現在在籍する高校では、「楽しい」は約20%にまで減少する。

パターンとしては「家庭」イメージとよく似ているが、「楽しい」が高校でさらに減る点異なる。

そこで、小学校から高校までを通じた授業イメージを基に、性交経験率を比較する。また、中学校でのイメージ変化による性交経験への影響を見るために、中3までに経験を持った者の率（早期経験率）も併記する（図9～10）。

A) 小・中・高校を通して「ずっと楽しかった」とする群の経験率は男子30%、女子28%で、女子は早期経験率も非常に低い。

B) 「中学校から楽しくなくなった」群になると、女子が38%へと上昇し、早期経験率も急増するが、男子は31%でAと変わらず、早期経験率も低い。

C) 「高校で楽しくなくなった」群では男子が36%になり、女子も43%にのぼっているが、早期経験率はBとほぼ変わらない。

D) 「ずっと楽しくなかった」では、男女ともに経験率が42%になり、早期経験率も高い。

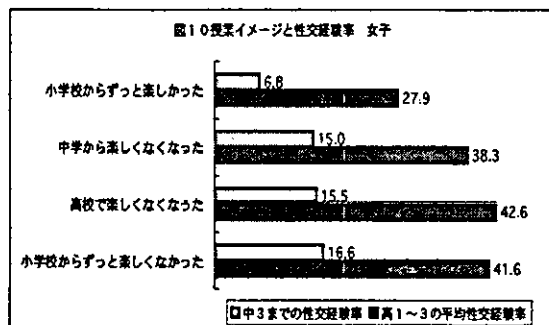
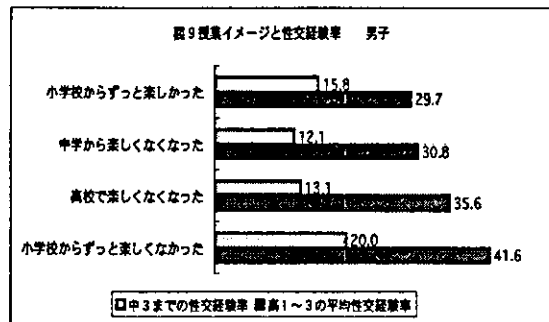
すなわち、中学校で授業が楽しくなくなるということは、中学女子において性交経

験の早期開始に強く影響し、高校での経験率も高める。

一方、中学までは楽しくても高校で楽しくなくなるということは、高校男子の経験開始に関連しているようである。

また、小学校からずっと楽しくないということは、男女両性で性交経験率を亢進させる要因となっているが、特に男子においては、早期経験率を非常に高め、高校における経験率もさらに亢進させている。

小学校から高校まで、いずれの時期にも授業を楽しく感じる状況にあるということは、特に女子において、性行動の抑制に結びつく要因になっていると思われる。



● 専有物

PHS・携帯電話の専有率は男子95%、女子99%、個室も男子85%、女子83%が専有しており、これらは他のものに比して突出している。

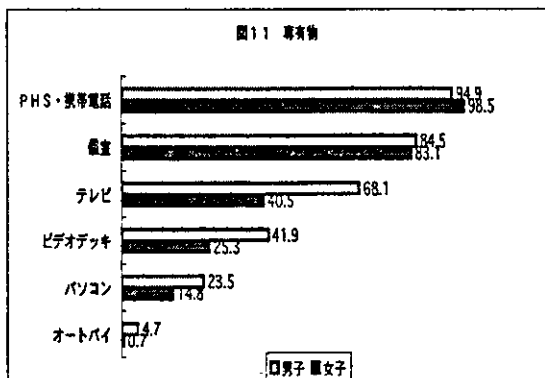
テレビ・ビデオデッキ・パソコンは、女

子に比して男子の保有率が明らかに高い(図11)。

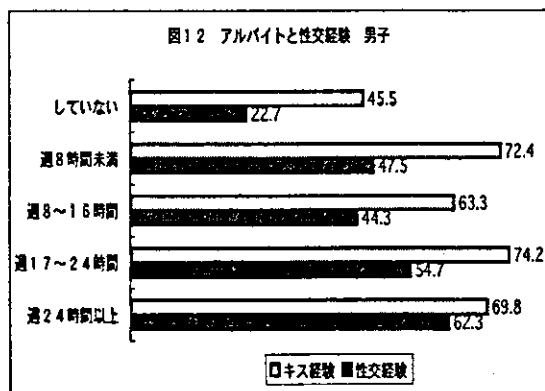
男子で「テレビ」「ビデオデッキ」を専有している者は、情報源として「アダルトビデオ」を挙げる率が高い。

しかし、「パソコン」を持つ男子は「アダルトビデオ」の選択率が低く、「パソコン」自体を性情報源としており、「友人・先輩」「雑誌」の率も低い。インターネットによって得られる性情報は多岐にわたり、豊富でもあるが、アダルトサイトへの接触をビデオ視聴の代用としている可能性も高いと思われる。

また、「オートバイ」を持っている者は男子の約5%と少数ではあるが、その5割がアルバイトをしており、かつ労働時間



が長い。また、この約半数は「アダルトビデオ」を情報源と見なしており、他に比して群を抜いて高く、一方で「学校



を情報源として選択する率が非常に低い。その他、「出会い系サイトを使う」「風俗に行く」「援助交際をする」経験率も高い。

● アルバイト

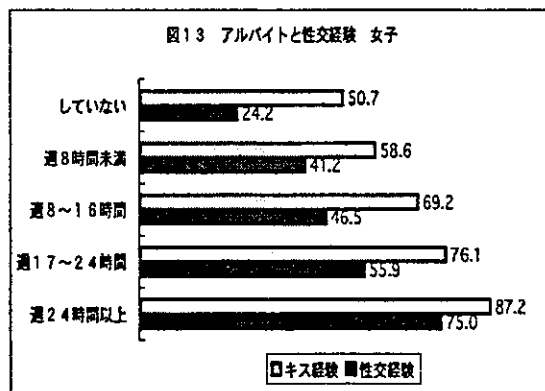
男子全体の2割、女子の3割がアルバイトをしている。働いている者のうち、男子4割、女子3割は週17時間以上であった。

また、男子は3年生になると人数が増え、長時間働く率も増えるが、女子は2年生から増え始め、3年生になるとさらに多くが長時間働くようになる。

アルバイトは性行動と優意差を持って強く関連しており、キス経験の場合、男女ともにアルバイトを「していない」者は約半数がキス未経験であることに比して、「している」女子では「週8時間未満」でも経験率が増え、さらに時間が長くなるに連れて上昇し、「週24時間以上」では約9割がキス経験を持っている。

男子ではアルバイト開始とともに急激に増えるが、いずれの時間帯も7割前後で、長時間化による経験率の変化は明らかでない。

性交経験では、アルバイトを「していない」者の経験率は男女ともに約2割であるが、アルバイトを始めると、たとえ「週8



時間未満」であっても男子は48%へ、女子は41%へと急増する。そして、24時間以上では男子62%、女子75%（3年生であれば男子77%、女子88%）に達する。

アルバイト時間が24時間以上では、キス経験率と性交経験率の差が小さく、キスから性交への過程の抑制が弱い。ここには時間だけでなく家庭イメージも関連しており、特に女子では、現在の家庭が「楽しくない」とキスから性交へ移行しやすい（図12～13）。

#### ● 高校時代における性交経験の容認

高校時代の性交経験を容認する者は男子76%（平成12年調査83%）、女子76%（同80%）であり、容認しない者は男子5%、女子7%であった（非容認については、前回調査と選択肢が変わったため、比較することができない）。

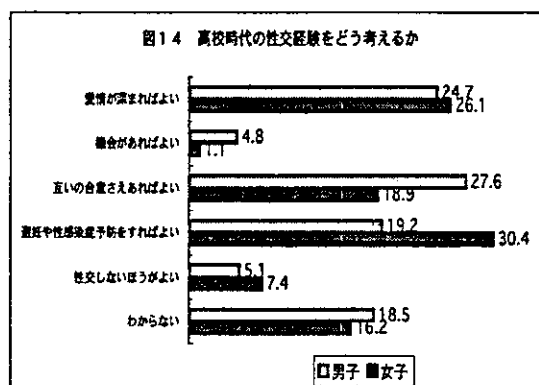
容認の条件は男子では第1位に「互いの合意さえあれば」28%（同36%）を挙げている。以下は「愛情が深まれば」25%（同28%）、「避妊や性感染症防止を心がけるなら」19%（同第4位7%）と続く。ちなみに前回の第3位は「機会さえあれば」13%であった。

一方、女子は第1位を「避妊や性感染症防止を心がけるなら」30%（同第3位13%）とし、以下は「愛情が深まれば」26%（同第1位38%）、「互いの合意さえあれば」19%（同第2位26%）となる（図14）。

すなわち、男女は同程度に性交経験を容認しており、その条件とするものも同じで

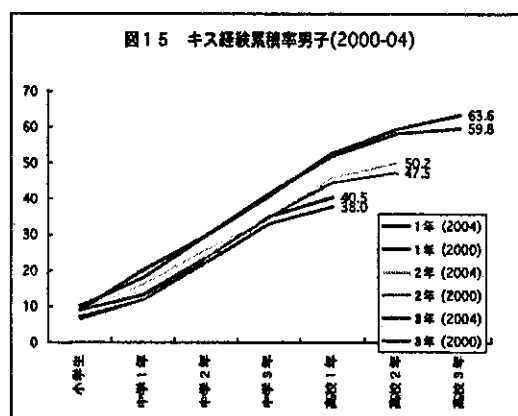
あるが、中でも妊娠や性感染症の当事者となりやすい女子の方が、それらの予防を必要条件として高く掲げていることがわかる（図14）。

また、前回調査時に比べると、性交自体を「愛があれば」「互いの合意があれば」といった情動的な面から捉えるだけでなく、「避妊や性感染症予防」という健康に関わる面から捉える視点が育ってきており、これが後述の性交経験率の変化にも影響を及ぼしたと考えられる。

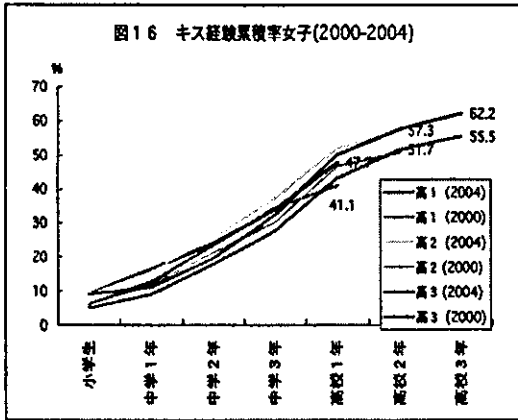


#### ● キス経験

平成16年度高校1年生のキス経験率は男子41%（平成12年調査38%）、女子48%（同41%）であり、2年生は男子50%（同48%）、女子57%



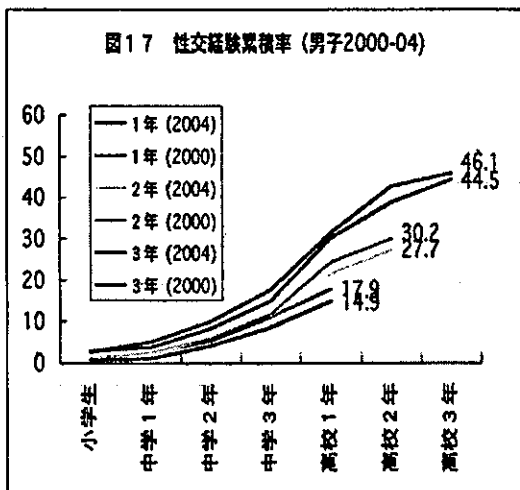
(同51%)。また、3年生は男子64% (同60%)、女子62% (同56%)である。4年前に比して全学年でキス経験率は上昇している(図15~16)。



一方、累積率では、いずれの学年も中学2年から高校1年にかけて伸びるが、現在の高校1年生男子の経験率は、2、3年生が1年生であった時に比して経験率が下回っている。

● 性交経験

性交経験率は、4年前と比較して男女ともに全学年で低下しており、男子1年が15% (平成12年度18%)、2年が28% (同30%)、3年は45% (同46%)



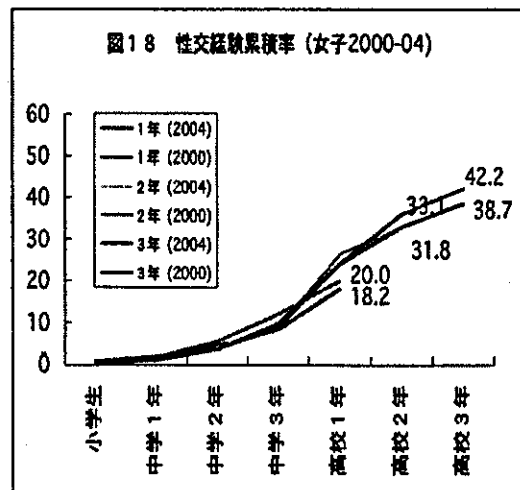
であった。

女子も1年18% (同20%)、2年32% (同33%)、3年38% (同42%)であり、性交経験開始には抑制がかかったように思われる。

また、経験累積率は中学3年から高校1年にかけて急激に伸びるが、現在の3年生男子は同期間に15%から30%へ、女子は10%から24%へと2~3倍も増したのに比して、1年生男子は9%から15%へ、女子が9%から18%へと、その増加率は小さくなっている。

性交経験はキス経験と反対に4年前より遅くなり、さらに1年生は3年生より遅くなっていることがわかった(図17~18)。

キス経験は増加したにもかかわらず、性交経験が減少したということは、性行動がキスから性交へと移行する間に、何らかの自己抑制が働いたことを意味している。その抑制動機のひとつが、性交容認の条件で述べた妊娠や性感染症への危機感の高まりである可能性は否定できない。



### ● 初回性交の相手

初回性交時の相手は男女とも第1位が「高校生」であり、男子では59%、女子も55%を占めるうえに、学年を追うに連れ、その割合が高まる。特に男子では、1年47%から2年58%、3年64%へと、その特徴が著しい。

第2位も男女同じで「中学生」であるが、男子32%、女子20%と男女間に差が認められる。また、第1位とは全く逆で、学年を追うに連れ割合が低くなり、男子1年47%から3年23%へ、女子1年28%から3年14%となっている。

しかし、男女間の最も顕著な相違は第3位以下にあり、女子は3位に「社会人」17%、4位に「大学生」5%がくる。特に、長時間のアルバイトをしている女子では「社会人」「大学生」が占める割合が高く、中でも「社会人」は2割に上っている。

男子は相手の9割が「高校生」と「中学生」で占められ、第3位以下は各選択肢ともに、ごく僅かである。

また、初交経験を持った時の年代と相手との関連を見ると、男女ともに自分とほぼ同年代の相手を示している。

しかし、小学校で経験した者の場合は、第1位「小学生」に続く第2位が「社会人（フリーターも含む）」であり、「社会人」と「大学生（専門学校・短大・予備校生を含む）」を合わせると男子16%（平成12年調査16%）、女子22%（同17%）に上り、特に女子で増えていることがわかる。

ここには携帯電話の普及などが影響していると思われるが、今回の調査では小学校

時の携帯の所有について問うていないため、どのようなルートで社会人や大学生と交際していたのかは明らかにできなかった。しかし、13歳未満の女子との性交は強姦罪であり、この点は今後注目すべき問題である。

### ● 初回性交の主導者

主導者がどちらであったかは主観による判断となるためか、回答は男女間で著しく異なる。

男子は「どちらともいえない」が半数以上で、「自分から」は3割、「相手から」を2割としている。女子では「相手から」が6割、「どちらともいえない」が4割で、「自分から」とする者は2%に過ぎない。

### ● 初回性交の動機

第1位は「愛していたから」が挙げられ、男女ともに6~7割に上っている。

第2、3位の「遊びや好奇心から」または「ただなんとなく」は2~3割であるが、これらは他の選択肢より群を抜いて多い。

ピア・プレッシャーが問題とされる「友人に遅れたくなくて」は、男女ともに5%に過ぎない（表1）。

「友人に遅れたくなくて」「酒を飲んだ勢いで」「お金が欲しくて」を動機とした者の2割は、初めての性交経験に対して「経験しなければよかった」と感じている。

「お金が欲しくて」は男子12名、女子7名であるが、その多くは交際の動機を「街で声をかけられた」からと答え、現在の特定交際相手は「社会人」が最も多い。



表1 初回性交の動機（2つまで）  
男子性交経験者(675名)

愛していたから	61.0
遊びや好奇心から	31.3
ただなんとなく	22.2
酒を飲んだ勢いで	6.8
相手をつなぎ止めておきたくて	5.9
友人に遅れたくなくて	5.0
無理やり迫られて	3.9
さびしくて	3.4
お金が欲しくて	1.8

女子性交経験者(818名)

愛していたから	66.7
ただなんとなく	20.9
遊びや好奇心から	16.4
無理やり迫られて	9.2
相手をつなぎ止めておきたくて	6.1
友人に遅れたくなくて	5.0
酒を飲んだ勢いで	4.8
さびしくて	2.2
お金が欲しくて	0.9

初交動機とその時の避妊実行率を見ると、男子では「友人に遅れたくなくて」「愛していたから」「遊びや好奇心から」における避妊実行率は7割と高かったが、「お金が欲しくて」「酒を飲んだ勢いで」「無理やり迫られて」では3～5割と低かった。

実行率が低かった3項目では、今までに性感染症に罹患したことがあると答えた者が多い。

女子では「愛していた」「さびしくて」「つなぎとめたい」が7割強と高く、「酒の勢い」「無理やり」「ただなんとなく」が3～4割と低い。

女子の場合、自分自身の感情や願望に基づく主体的な動機においては避妊実行率が高く、非主体的あるいは自己主張の乏しい動機においては実行率が低かったことが、明瞭に読み取れる。

「お金」が性交経験の動機であった者は、

性感染症の既往率が50%に上る。

#### ● 初回性交の感想

「経験してよかった」は約6割、「経験しなければよかった」が1割弱であった。

「経験しなければよかった」者の性交動機は「友人に遅れたくない」「酒の勢い」「お金が欲しい」が多い。

#### ● 妊娠への危機感

性交時に妊娠が「非常に気になる」とする者は男子50%、妊娠の当事者となる女子でも53%に過ぎない。「少し気になる」を含めると、男女ともに9割を超える。

情報源を「家庭」「専門書」とする女子は妊娠への危機感が強い。

また、危機感を強く持つ男女はともに、知りたいこととして「性に関する相談にのってくれるところ」を多く挙げている。家族からの情報や専門書以外に、実際的な避妊相談などを求めているのではないと思われる。

危機感は全くないとする男女の半数以上は、知りたいことも特になくとしている。

一方、妊娠を非常に気にしていても避妊実行率は約4割にとどまっている。

#### ● 性感染症への危機感

性交時に性感染症が「非常に気になる」とする者は男子33%、男子に比して感染を引き込みやすい女子でも40%に過ぎない。「少し気になる」を含めると、男女ともに8～9割になる。

「非常に気になる」者は、男女ともに情報源として「病院・保健所などの専門機関」

を挙げる率が非常に高く、「少し気になる」程度の者は、情報源として「友人・先輩」からの知識を当てにしている。

一方、妊娠同様、病気への危機感はあるにもかかわらずコンドームの使用率は4割弱である。

● 初回性交時の避妊

初回性交時の避妊実行率は男子66%（平成12年度調査48%）、女子68%（同54%）であるが、初回性交時の学年によって異なる。

男子は小学校で経験した者を除けば、中学1年時経験者実行率41%から高校2年時79%へと、経験時の学年を追うに連れ避妊実行率が上昇する。しかし、高校3年時では69%であり、やや落ちる。

女子も小学校時35%から高校3年時82%まで、経験時の学年が上がるに連れて実行率の上昇が認められる（図19～2

0）。

早期の性交経験では避妊の意識が薄く、妊娠の危険性が大きいことを現しているが、避妊の実行率は前回調査時に比べれば、かなり改善してきたといえる。

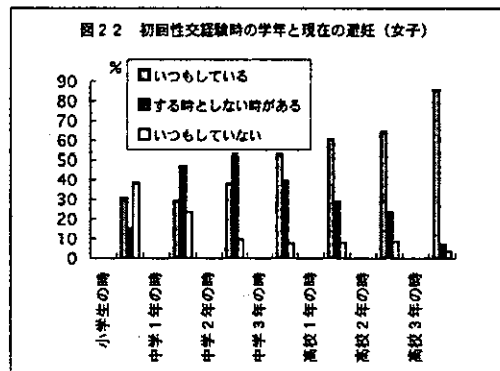
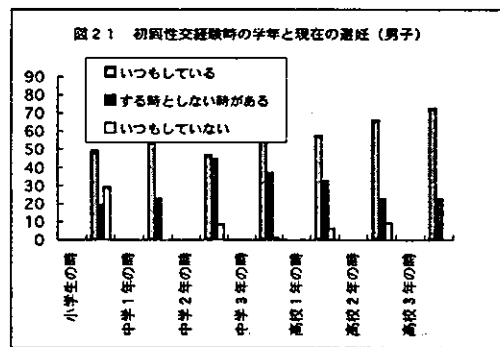
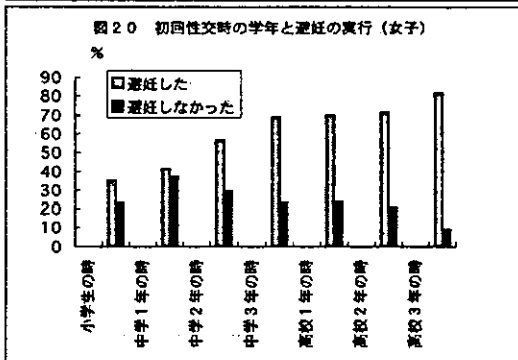
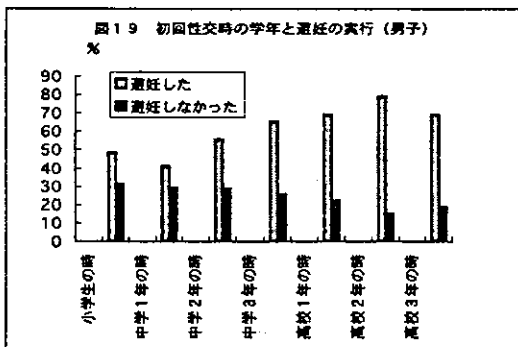
● 現在の避妊

初回性交の経験後、現在も性交が継続している者は男女ともに約6割である。

現在の避妊実行率は「いつもしている」が男子54%（平成12年調査47%）、女子57%（同43%）。「いつもしていない」は1割未満である。

学年が上がるに連れて実行率も上がる傾向にある（図21～22）。

初回性交の動機を「酒」「金」とした男子の4～5割は、現在も「いつもしていない」と答え、初回時、現在ともに非実行率が明らかに高い。



● 避妊方法

避妊を「いつもしている」とする者が選択している避妊法としては、男女ともに約95%がコンドームを挙げているが、その2割は陰外射精やリズム法といった失敗の多い方法も同時に選択している。結局、「いつもコンドームを使って避妊している」のは、現在性交を継続しているもの全体の約4割に過ぎない。最も確実な避妊法であるピルを使用しているのは男子1.8%、女子1.0%であった。

● 性情報源

男女ともに約半数が第1位に「友人・先輩」を挙げ（12年度調査男子48%、女子59%）、続いて「学校」「雑誌」を挙げている（表2）。

表2 情報源（2つまで）  
男子 2,485名（100%）

友人・先輩	56.7
学校	28.9
雑誌	25.7
アダルトビデオ	21.7
パソコンや携帯電話	14.8
マンガ	11.1
家庭	3.0
専門書	2.8
病院・保健所などの専門機関	1.5
女子 2,831名（100%）	
友人・先輩	59.3
学校	38.0
雑誌	28.2
マンガ	17.3
パソコンや携帯電話	7.1
家庭	4.2
病院・保健所などの専門機関	2.5
専門書	2.1
アダルトビデオ	1.2

その中で、「学校」を挙げたものは男子2.9%（12年度調査1.1%）、女子3.8%（同1.4%）に上り、前回調査に比して、「学校」を情報源として捉える認識が非常

に高まっていることが明らかになった。特に女子は、選択2項目までという条件下で、いわゆる口コミ情報源としての「友人・先輩」を選択する率を下げ、「学校を」大幅に上げている。このような確かな性情報を求めようとする姿勢が、今回の調査に現れた性交経験の抑制の要因になったものと考えられる。

男女ともに20%以上が情報源として挙げているものは、女子の場合は上記3種類のみであるが、男子では「アダルトビデオ」「パソコンや携帯」「マンガ」の計6種類であり、男子の情報源は多岐にわたっていることがわかる。

● 性情報・性行動ツールへの接触経験

男女とも第1位から3位までの順位が同じであるが1、2位は他に比して非常に高く、かつ両者の男女間の経験率には大きな差が見られる。

つまり、第1位「エッチな雑誌やマンガを見る」は男子70%、女子41%であり、第2位「アダルトビデオを見る」は男子61%、女子19%となっている。第3位は「出会い系サイトを使う」が挙げられているが、経験率は男女ともに7%であり、差は認められない（表3）。

性交経験者と未経験者の間には、性情報ツールへの接触経験率に明らかな差がある。特に、小学校で性交経験を持った者は、男女ともに「アダルトビデオ」「風俗」「援助交際」「出会い系サイト」への接触経験率が高い。

また、選択項目数では男子1、8項目、

女子1、3項目であることから考えても、女子は男子に比して性情報ツールそのものが少なく、接触経験も乏しいといえる。

接触経験 (男子)		表3 経験の種類	接触経験 (女子)	
性交あり	性交なし		性交あり	性交なし
83.7	55.2	アダルトビデオを見る	43.9	10.6
21.4	2.7	出会い系サイトを使う	14.2	3.3
13.0	0.7	風俗に行く	3.8	0.2
78.0	69.5	エッチな雑誌やマンガを見る	55.4	39.0
9.5	0.6	援助交際をする	7.1	0.2
9.1	26.5	どれもなし	34.7	58.9

「どれもなし」は男子21%、女子49%であった。

#### ● 性行動に関する規範

1) 「愛情がなくても性交をすること」を「よくない」または「どちらかといえばよくない」とするものは男子52%、女子71%である。

一方、「かまわない」または「どちらかといえばかまわない」は男子33%、女子20%であり、男女間の性意識に隔たりが大きい。

「かまわない」とする男子の6~7割、女子の5~6割が「風俗」「援助交際」の経験があった。

2) 「同性と性的行為をすること」を「よくない」または「どちらかといえばよくない」とするものは男子48%、女子31%である。

一方、「かまわない」または「どちらかといえばかまわない」は男子26%、女子46%であり、同性間の性行為は男子の方が厳しく見ている。

3) 「お金や物をもらったりあげたりして

性交すること」を「よくない」または「どちらかといえばよくない」とするものは男子68%、女子79%である。

一方、「かまわない」または「どちらかといえばかまわない」は男子20%、女子14%と低く、売買春に関しては男女ともに批判的である。

売買春を「かまわない」とする男女の5~6割に、「風俗」「援助交際」の経験がある。

いずれの質問項目においても「かまわない」とするものは、男女ともに学年が上がるに連れて増えており、成長に従ってさまざまな性行動に対する許容度が高まってゆく様子が見られる。

#### ● 知りたいこと

男女ともに第1位に「男性と女性の心理や行動の違い」を挙げているが、トップといえども男子27%、女子34%であり、積極的に性情報を欲しているようすは感じられない。

しかし、女子の第2位「性感染症(エイズも含む)」は31%、3位「生命誕生(妊娠・出産)避妊・中絶」は28%と、すべてが男子の1位より数値が高く、一人当たりの選択項目数も男子1.5項目、女子1.7項目であり、全体として女子の方が性知識を求めていることがわかる。

また、女子の場合、「知りたいことはなし」が1年40%、2年35%、3年30%と、学年が上がるに連れ減っており、性知識の必要性が高まってくるようすが窺えるが、男子の場合は学年による変化は認められない。